



**平成 29 年度「アートをテーマとした構想事業」
業務委託活動報告書**

特定非営利活動法人ジャパンイニシアチブ

目 次

1. はじめに	2
(1) 活動内容と活動の目的	
2. 女子美術大学の「アートをテーマとした構想事業」に 対する取り組みについて	3
(1) 長和町職員による取り組みの検討	
(2) 長和町との「包括連携協定」について 打ち合わせ概要	
(3) 平成 30 年度女子美術大学の活動に関する提案	
3. サテライトオフィスに関する調査活動	11
(1) 企業からのヒアリング	
(2) 企業による長和町現地視察	
(3) 視察後のヒアリング	
(4) 課題等の分析	
4. 「アートをテーマとした構想事業」専用のホームページ制作	32
5. 来年度（平成 30 年度）の事業	33

1. はじめに

平成 28 年度から実施している「アートをテーマとした構想事業」に関し、2 年目の取組を次の内容で行うこととした。平成 29 年度は昨年度実施した女子美術大学のワークショップなどは行わず、主に「アートをテーマとした構想事業」の実現性などを模索するための調査活動行うこととした。

(1) 活動内容と活動の目的

1. 長和町 - 女子美術大学の包括連携協定締結を視野に入れ、女子美術大学からの具体的な活動に関するヒアリングおよび長和町の構想の意図との調整をする。

平成 29 年度については包括連携協定ありきではなく、女子美術大学の活動可能範囲や長和町の意図を踏まえ、来年度以降の活動を具現化するための調査活動を行う。

2. サテライトオフィス設置の可能性について都内の企業からのヒアリング活動

都内のコンテンツ制作企業（アニメ、CG 制作会社等）複数社からのヒアリングを行い、サテライトオフィス設置のメリット・デメリット、設置に必要な現地インフラなどの調査活動を行う。

3. サテライトオフィス設置の可能性を模索するための企業の長和町視察訪問の実施

上記 2. の活動を通して、長和町へのサテライトオフィス設置に興味を示した企業の長和町への視察訪問を実施する。

4. 活動内容の周知活動（Web サーバ構築およびホームページ制作）

上記事業および昨年度女子美術大学が行ったワークショップ等の活動を広く周知するために、専用 Web サーバを構築し、ホームページを作成する。さらに、既存の長和町公式 Facebook サイトへのコンテンツ供給を行う。また活動の進捗に合わせ、月次でホームページの内容の更新を行う。

5. 平成 29 年度活動報告書作成および来年度以降の活動指針（アクションプラン等）の提案

今年度事業の報告書を作成する。また、今年度の活動を通して知りえたことなどを長和町と共有し、来年度以降の活動指針（アクションプラン）を提案する。

以上の活動について以下の通り報告する。

2. 女子美術大学の長和町

「アートをテーマとした構想事業」に対する取り組みについて

(1) 長和町職員による取組の検討

女子美術大学との包括連携協定の検討資料とするため、平成 28 年度の事業成果を長和町職員間で共有した上で、町職員に対し町として女子美大と連携して行いたい事業を募集した。

その結果、アイデアとして下記のとおり意見が提出され、女子美術大学側に提案を行った。

	内 容	補足事項
1	黒耀石を広くPRする イメージ戦略についての検討	<ul style="list-style-type: none">別紙「Obsidian art 創生プロジェクト」
2	女子美大生の感性を活かした 「アート×空き家」の 協働事業	<ul style="list-style-type: none">「長和町地方創生推進本部若手職員による職員プロジェクトチーム報告書（グループD）」による。平成 28 年度事業成果中、「長和町空き家リノベーションプロジェクト」と類似した内容。空き家を学生の発想でリノベーションする。
3	総花的になりがちな町のPR イメージづくりへの協力	<ul style="list-style-type: none">町全体をイメージできるようなイメージ素材づくりを行い、それを基に各種事業計画を立案。
4	町各種計画等への挿絵などを お願いする	<ul style="list-style-type: none">防災関係（避難場所の明示、避難経路、災害時の対応等）をまとめ全戸配布。町の計画の冊子への挿絵。
5	農産物のPR	<ul style="list-style-type: none">ブロッコリー普及のためのチラシ作成。和田青年農業者クラブからの受託。町としても、普及を目指している。（ミニトマト、アスパラ等も。栽培者は限られるが、町としてのPRならば可能か）
6	町関係イベントのポスター 作成	<ul style="list-style-type: none">和田新そば祭り等のイベントポスターのデザイン
7	PRのためのバスへの ラッピング	<ul style="list-style-type: none">町のPRのため、町のバス（和田バス委託）やJRバス、和田バスにラッピング。デザインを女子美大生に考えてもらう。

	内 容	補足事項
8	公共施設に絵を描く	<ul style="list-style-type: none"> • 新庁舎裏側へ絵を描く。庁舎北側が寂しい。長和町らしいデザインを女子美大生に考えてもらう。実際に描くのは町民。 • ながと保育園のプールのフェンス、保育園バスのバス停への女子美大生によるペイント。(学生の作品展示の場所としての活用もよいのでは。)
9	長和町の特産品や企業、団体の「物語」掘り起こし、それを紹介する本(漫画)をつくってPRする	<ul style="list-style-type: none"> • 長和町の特産品(奨励品)について、その品物ができるまでの物語や事業者そのものについて、を奨励品事業者に聞き取り、漫画で表現してもらい、PRに活用する。(例:「ダッタンそば物語」)長和町奨励品に認定されれば、女子美大の皆さんにそのような漫画を描いてもらえるという制度にすれば、奨励品認定のメリットにもなる。 • 長和町にある企業について、その製品や会社についての物語を漫画にしてもらう。商工会等を通じ募集。その企業にある物語をPRすることで、人材募集の観点からもメリットがあるのではないかと。(例:クルミ加工をしている会社にクルミのことを聞き、それをPRするなど) • 長和町にある団体をPRしてもらうのも良い。 • 女子美大生の皆さんに、直に話を聞いてもらい、その品物や企業、それらに関わる人を良く知ってもらった上で取り組んでいただきたい。 • 「長和町〇〇物語」などでシリーズ化し、ある程度たまったところで、広報と一緒に配る、学校に配布して長和町を知ってもらう一助とする等もできるのではないかと。 • 作成したものは、ホームページ等を通じて町の知名度向上のためのPRに活用するほか、それぞれの事業者にも有効活用してもらう。

	内 容	補足事項
10	リアルな人形を作り、町内の観光地等に設置	<ul style="list-style-type: none"> • 木工業者の方が、下和田バイパスの花畑に花の絵を描いている様子の人形を設置したが、現実の人に見間違えるほど良くできていた。 • ほのぼのしていて長和町の雰囲気合っているのではないか。 • 観光客もそれを見て足を止めていたが、そういうものを町内各所に置き、マップのようなものを作り、探してもらうのも面白いのではないか。
11	長和町に伝わる民話を漫画にしろもらい、冊子を作ったり、ホームページ等でPRする。また、アニメーション化してCATVで放送する。	<ul style="list-style-type: none"> • 長和町に伝わる民話（昔話）を漫画にしろもらい、デジタル技術を使った絵本にしろもらい、ホームページ等で公開、多方面からアクセスできるようにする。 • 長和町に伝わる民話（昔話）をアニメーションにしろもらい、町のCATVで放送する。 • 長和町に伝わる民話（昔話）を知らない人が多いと思うので、漫画やアニメにして多くの人に知ってもらうことは意味のあることではないか。



Obsidian art 創生プロジェクト

美しく輝く黒耀石は日本最古のブランドとして
古の命を今につなげてきました…。

本州最大規模の黒耀石原産地の一画にある長和町は、黒耀石の歴史と魅力をまちのシンボルとして大切にしています。

Obsidiann(英語名)という名は、音楽やゲームソフトにも登場し、Obsidian Blackといった車の色としても人気があります。しかし、一般には黒耀石の名を聞いたことがあっても、その魅力に触れる機会は少なく、イメージすることは難しいようです。

黒耀石の魅力を広くアピールする方法として、日常生活の衣食住や文化、教育の様々な分野に視点を置いた Obsidiann art の提言と創作活動にトライできないでしょうか。

プロジェクトの例

- ・Obsidianのイメージ戦略… 黒耀石の魅力をアートとして表現
絵画や町中に配置するモニュメントの創作と
町並みギャラリーへの展開
- ・Obsidian フードケープ(食風景)の創作… 食とObsidiann art の提言
Obsidianワイングラスの創作
長和特産ワイン(Obsidiann wine)との提携
- ・Obsidian アートワーク… Obsidian アートの体験プログラムの創造と
黒耀石のふるさと祭りワークショップへの参加
- ・Obsidian art ギャラリー…Obsidiann artのスポット誕生



Obsidian artの表現方法は、絵画やモニュメントに限らず、音楽や様々なパフォーマンス、実用品などに広がりをを持たせるものです。

(2) 長和町との「包括連携協定」について 打ち合わせ概要

平成 29 年 11 月 4 日女子美術大学常務理事室において長和町「アートをテーマとした構想事業」に関する女子美術大学の今後の取り組みについて話し合いを行った。

出席者

常務理事 五十嵐義明、 教授 内山博子、 教育研究グループ課長重光崇、 主任 竹内達徳
地域連携推進室長 玉田里佳子、 評議員 為ヶ谷秀一 ジャパンイニシアチブ 青木 福井

女子美術大学の経営側を代表して五十嵐常務理事を交えて長和町との「包括連携協定」についての考え方をヒアリングしたところ、女子美術大学は今後「包括連携協定」に前向きに取り組むということを確認した。その上で平成 30 年度以降の長和町での活動内容について検討した。大学として担当学部をメディア表現領域として、研究室の担当者を決定することとなった。

その後、メディア表現領域の浅野教授を担当教授として、そのサポート担当として早淵助手が窓口として決定された。

(3) 平成 30 年度女子美術大学の活動に関する提案

来年度（平成 30 年度）の女子美術大学の活動方針を決定するべく、以下の通り調査し、企画した。

長和町における継続的な活動を行うために必要な情報収集と、その結果を踏まえて活動内容を企画提案する。

実施には「コミュニケーション」「拠点づくり」に重点を置く。

<コミュニケーション>

目的：学生の活動が独りよがりにならないよう、より町の方々と共鳴できる作品作り、企画提案ができるよう町民とコミュニケーションを図っていく。

平成 28 年度には女子美術大学の学生が長和町を訪問し、ワークショップを行った。これは女子美術大学の学生がいくつかの町の拠点を訪問し、その印象からあくまでも学生の思いからの作品作りになっており、女子美からのプレゼンテーションとなっている。今後の女子美術大学の作品、企画が学生の独りよがりにならないためにも、町の人たちに受け入れられ、理解を得るために町の方々がとのコミュニケーションが必要である。

実施内容：コミュニケーションの手段として、情報収集活動を活用する。

これは活動のための情報収集と、その活動を通して地元の方々とコミュニケーションを図ることにある。

学生が長和町をリサーチすることでより長和町を知り、長和町の方々により女子美術大学を知ってもらう。そして学生もリサーチを通じてよりモチベーションを上げていく。

またリサーチさせていただいた近所の住民の方々から、この活動を周辺に波及していくことを理想としている。

A . 情報収集の内容と提案

a) 地元の名所について

例：長門牧場、和田宿、黒耀石体験ミュージアム、神社など

特に学生目線で見つけてきたスポットなどを WEB、SNS などで紹介し、可能であれば町の各所の場所を明示する看板のデザイン表示などのサイン計画（サイネージ）、観光スポットにベンチやテーブルのようなものを設置し、その場を楽しむことができるよう環境を整えるという提案を想定している。

b) 地元の逸話などの情報収集

例：民話や特産物生産に関するお話など

民話などを取材し、絵本、アニメ等を作成（可能ならば幼稚園などで読み聞かせや上映など）の3つを中心として活動の提案を想定している。これをワークショップ活動のテーマとして、作品を発表することで町の広報活動に寄与することも可能である。

c) 地域の方々の技能などについて

例：紙布織、紙漉き、郷土料理など

情報収集とともに、実際の技能を体験し WEB や SNS で配信することを想定している。地域の方々の技能とともに、長和町の人たちそのものを発信していく。

d) その他

そのほかに、祭りやフェスなどの女子美術大生らしい催しを企画し、地域の活性化と大学と地域の方々のコミュニケーションを図る取り組みも検討する。

B. 国、県などへの補助金申請を前提とした活動

女子美術大学からの独自の提案、および文化庁などへの提案への素地づくりを行う。

例として文化庁では以下のような活動の推進を行っている。

例：文化遺産総合活用推進事業（平成 30 年度は募集終了）

地域文化遺産活性化事業の目的

我が国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用した、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成，古典に親しむ活動など、各地域の実情に応じた特色ある総合的な取組に対して補助金を交付することで、文化振興とともに地域活性化を推進することを目的としている。

（文化庁ホームページより）

http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/joseishien/chiiki_kasseika/h30_sogokatsuyo/

これは地域の文化遺産を活用した取組が計画的・効果的に実施されるよう、各地方公共団体において、地域活性化に資する特色ある総合的な取組に関する計画を募集するものであり、情報発信事業、普及啓発事業の提案が求められている。

長和町のもつ黒耀石体験ミュージアム、和田宿などを中心とした提案を想定される。そのための企画提案のための材料づくりを行う。

C. 平成 30 年度にむけて

女子美術大学の学生（3 年、2 年生）5 名前後による情報収集活動を行う。

期間は 1 回について 2～3 日、時期を分けて行うことを想定している。例えば、夏と秋など季節環境が違う時期に行えば町をより理解することができる。

<拠点づくり>

目的：長和町での活動を長期にわたって定期的に行うにあたり、女子美術大学独自の拠点づくりが必要である。加えて宿泊、ミーティング、作品、企画提案づくりを行うことができる環境が必要である。場所は町民からフィードバックが受けやすい場所が望ましい。

実施内容：和田宿、長久保宿付近、または庁舎近くの空き家などを改造することで滞在中の食住環境をつくり、活動拠点とすることを想定している。

また空き家改造にあたっては、一部女子美術大学が行い、そこを地域の方々も使用していただくことも前提としていきたい。

具体的な活動内容

情報収集と町役場の方々との検討から、拠点の場所と空き家を選択し改造計画を提案する。

改造については、国土交通省「空き家再生等推進事業」の活用を検討する。

3. サテライトオフィスに関する調査活動

(1) 企業からのヒアリング

サテライトオフィスを誘致する地方自治体があることを前提に企業（以下のとおり）からヒアリングを行った。

概ね各社からは「今のところ具体的にサテライトオフィスを検討はしていないが、一度現地視察してその可能性については検討してみたい」という意見を聞いた。環境が整えば興味が喚起される可能性も同時にうかがえた。

白組、手塚プロダクション、大日本印刷株式会社、グラフィニカ、日本電子専門学校
大日本印刷ドット DNP、日本工学院専門学校、東京工科大学

日時	面談者	面談内容
9月12日	株式会社白組 広報プロデューサー 粟飯原君江	本事業に関する説明と、白組の業務体制について話を聞く また、業界のサテライトオフィスの必要性を聞く。 白組ではサテライトオフィスについて検討したことがあるが、現状は話が動いていない。しかし検討の必要はあると考えているとのこと。
9月19日	株式会社手塚プロダクション 著作権事業局局長 清水義裕	本事業に関する説明と、手塚プロダクションの業務体制について話を聞く。 手塚プロダクションでは北京にスタジオを持っているが、ネットにつなげていない。ネット環境づくりに苦慮しているとのこと。
9月22日	大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 藤井大希	本事業に関する説明と、地域振興に関する大日本印刷の取り組みについて話を聞く。 市ヶ谷にドット DNP というショールームをもっており、そこで長和町に関するイベントなどを行うことは可能であるとのこと。

日時	面談者	面談内容
10月12日	グラフィニカ 執行役員 伊藤暢啓	本事業に関する説明と、グラフィニカの業務体制について話を聞く。 グラフィニカは日本各地へのスタジオの分散を行おうとしている。それには設置する地元の人材が欲しいとのこと。
10月18日	日本電子専門学校 CG科カリキュラム担当 金統一	本事業に関する説明と、教育機関として年次活動について話を聞く。 また、現時点での取り組みについて聞く。 現在墨田区と一緒にIT系の大学校の設置を進めている。専門学校では休み中に合宿を検討しているが、なかなか実現しないとのこと。
10月27日	大日本印刷株式会社 メディア本部企画グループ 浅羽慎太郎	本事業に関する説明と、大日本印刷の新規事業であるクリエイティブ人材育成の中でのワークショップについて聞く。 大日本印刷は現在、WEB上で展開するアニメーションのノウハウ講座を作り始めている。将来的には日本各地でワークショップ展開を視野にいれているとのこと。
11月10日	株式会社白組 広報プロデューサー 粟飯原君	株式会社白組が所属している関係団体の活動を聞き、業界全体のサテライトオフィス事情について聞く。 サテライトオフィスに興味をもつ会社はあるが、どこも人材、資金調達が難しい。1社単独では難しいのではないかとのこと。
11月13日	大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 藤井大希	地域紹介スペースの見学 市ヶ谷にあるドットDNPを訪問 当日は、富山県の紹介がされており、黒部ダムとダムカレーの案内があった。ほかにも各地の食品が販売されている。内部にカフェはあるが、紹介されている食品の飲食はできない。

日時	面談者	面談内容
11 月 20 日	日本工学院専門学校 クリエイティブカレッジ長 佐藤 充	本事業に関する説明と、日本工学院の産学連携活動の実績を聞く。 日本工学院は他校との交流イベントは積極的に行っており、女子美術大学と交流できるというのは魅力であるとのこと。
11 月 27 日	東京工科大学 メディア学部教授 三上浩司	本事業に関する説明と、東京工科大学の産学連携活動の実績を聞く。また研究内容について聞く。東京工科大学では夏にはゲームクリエイトの大会を校内で行い、他校からも多く参加している。このようなイベントでは、食住と制作環境が一体化していることが望ましいとのこと。

(2) 企業による長和町現地視察

長和町への現地視察も以下の通り実施した。

現地視察に伴い以下の内容の資料を各人に送付し、本活動に関する理解を得た。

長野県長和町 アートをテーマとした構想事業の協力のお願い

<ご依頼の内容>

長和町は以前よりアートをテーマとした町おこしについて検討してきました。平成28年度より具体的に活動を開始し、今年度は制作会社やアーティストが町に進出するために必要な長和町のインフラについて調査を行います。

その中で、サテライトスタジオ等の可能性のある制作会社、またはその他の企業、団体にヒアリングを行います。また直接町を訪問依頼し、より具体的にご意見をいただくことになりました。

についてはヒアリング、及び長和町を直接ご訪問にご協力をお願いいたします。

1. 主なヒアリング項目

1. サテライトスタジオを設営する場合のスタッフィングと住居環境について
2. サテライトスタジオの必要環境について
3. プロジェクトの実施環境と人員について
4. プロジェクトにおけるサテライトオフィス、またはスタジオの必要性について

など

2. 長和町訪問時期

平成30年2月下旬～3月上旬

1) 第1回・日程

<企業訪問記録>

- ・日時 平成30年2月24日(土) 長和町滞在 11:30～17:00
- ・参加者 株式会社白組広報プロデューサー 栗飯原君江
ディーユナイト プロデューサー 根来祥之
株式会社GYAO 飛田野和彦
一般社団法人日本映画テレビ技術者協会アニメーション部会長
馬渡貴志
一般社団法人日本映画テレビ技術者協会事務局長兼事業部部長
吉野香子
NPO 法人ジャパンイニシアチブ 青木寛
NPO 法人ジャパンイニシアチブ 福井真実
- ・日程

時 間		視 察 行 程
9:04		東京発はくたか554号
10:24		上田着 車で長和町へ
11:00	12:00	挨拶 長和町の概要説明
12:10	12:50	昼食(信州立岩和紙の里)
13:00	13:10	長久保地区集会所
13:15	13:35	田舎暮らし体験住宅
13:45	14:15	旧和田中学校
14:20	14:40	和田庁舎
14:45	15:00	和田宿の町並み
15:30	16:00	黒耀石体験ミュージアム
16:30	16:55	とびっ蔵
17:00		長和町役場着
		終了後上田発 18:34のはくたか572号で東京へ



2) 第2回・日程

<企業訪問記録>

- ・日時 平成30年3月1日(木) 長和町滞在 11:00～17:00
- ・参加者 株式会社手塚プロダクション 著作権事業局局长 清水義裕
東京デザイナー学院非常勤講師 豊田浩司
NPO 法人ジャパンイニシアチブ 青木寛
NPO 法人ジャパンイニシアチブ 福井真実
- ・日程

時 間		視 察 行 程
8:44		東京発はくたか555号
10:08		上田着 車で長和町へ
11:00	12:00	挨拶 長和町の概要説明
12:10	12:50	昼食(信州立岩和紙の里)
13:00	13:10	長久保地区集会所
13:15	13:35	田舎暮らし体験住宅
13:45	14:15	旧和田中学校
14:20	14:40	和田庁舎
14:45	15:00	和田宿の町並み
15:30	16:00	黒耀石体験ミュージアム
16:30	16:55	とびっ蔵
17:00		長和町役場着
		終了後上田発 18:34のはくたか572号で東京へ



(3) 視察後のヒアリング

以下のヒアリング項目に回答いただいた。

注：視察者の感想をそのまま掲載

1. 長和町の印象はいかがでしたか。

駅から少々離れているなと感じた。

黒曜石ミュージアム・牧場・美ヶ原高原・スキー場・旧街道などの優良観光施設が良く集まった場所だと感じた。

逆に平野部には今のところ、生かされたものが少ない印象でした。

事前に Google Map で場所を調べてから訪問しましたが、実際に駅から車で乗せてもらった際に、JR 上田駅から意外と距離があった印象があります。信州上田の静かな落ち着いたのある田舎町という印象でしたが、やや寂れている感じもありました。

自然に恵まれていて、東京から1時間30分という通勤可能な立地であることは、ビジネスを展開する上でも良い環境だと思います。特産品などもっとPRできると思います。

のどかな、いわゆる地方の町という印象です。

典型的な田舎の町で役場を中心に施設があって、その周辺は多少にぎわっている様子。温泉や「とびっ蔵」などの施設がその代表だと思う。しかし東京からそこを目当てでゆくかとなると疑問です。上田から車でのアクセスしかないというのも、つらいところだと思う。

ただ、旧中学校や、黒曜石の博物館などは、少し面白い。中学校舎は体育館を含めて相当なスペースになり、ここでは例えば吹奏楽団やオケの合宿地と練習場に活用するというのはどうだろうか。周りの泊まれる環境を含め、夏場なら旨く行くかも。高原でその時期に音楽祭が企画できればなおよいかもかもしれません。田舎暮らし体験住宅などもそうだろうが、宿泊するには清潔な寝具を安くレンタルできるということが大きな要素になると思います。

手入れされた町の印象、勾配の緩い土地である。大きな川がなく、遊びに（子供）ゆくところは、家周りだけの印象です。住みやすいところであると思う。

しかし、交通機関が車だけなので、運転のできない人（外来者）には不便。

30代前後の年齢の人の集える場所が少なそうです。

ファーストインプレッションとしては、素朴な田舎で、時間がゆっくり流れている感じを受けました。

自然の豊かさ、住んでいる人々が優雅に時を刻んでいる印象も強く、セカンドライフとしての場所としては、悪くないのではと思いました。

ただ今後、長和町が町として活性化し、人口を増やし、産業を充実させ、様々な意味で良き大きな町へと変貌するには、自治体と地元企業、周辺地域、そして他企業との協力によって、長和町の色をもっと出していかねば難しいとも同時に感じました。

印象があまり刻まれないというのが、一番よろしくないかと…。

2. 印象的な場所を選んでください。よいと思われる場所から番号をつけてください。

*印象のよいと思う場所を1番から順番に番号を付けていただいた。これはその平均値である。

信州立岩和紙の里（昼食）	6
長久保地区集会所	5
田舎暮らし体験住宅	4
旧和田中学校	2
和田庁舎	3
和田宿の町並み	2
黒曜石体験ミュージアム	1
とびっ蔵	7

**3. 訪れた場所について、改善すべきと思われる点がありましたら、ご指摘ください。
(すべての場所にご記入いただく必要はありません。)**

<p>信州立岩和紙の里 (昼食)</p>	<p>蕎麦は旨いし、和紙すき体験もあるし設備は十分ですね。 こうなるとやはりプロの働き手が仕事をしているといいですね。</p> <p>畳のお部屋が掘りごたつになっていると足の悪い方にも座って頂けると思いました。</p> <p>お手洗いまでのアクセスが、フラットだといいなぁと感じました。 手を洗う位置や手すりなども必要だと感じました。</p> <p>食事をする場所は、障害を持った方にも優しい作りが今後必要だと思っております。</p> <p>お蕎麦、大変美味しくいただきました。 が、和紙の里というには売店スペースに和紙製品が売っているだけで、工房の見学や和紙に対するPRが足りないのでは？と思いました。</p> <p>印象では、地方の特色を出した構えで、ドライブインとしては普通だと思います。予想外にトイレが暖かったです。 若い人が集まるような（カフェ的）ところではないですね。</p> <p>ネットでもよいから実際の体験風景を収録して、長和町がどこかを分かる映像として和紙体験をアピールするというのはいかがでしょうか。</p> <p>東京では絶対に食べられない特色・スペシャル感をもっと打ち出す必要を感じる。</p>
<p>長久保地区集会所</p>	<p>まだ本格活動していないとの事ですが、駐車場の有無が気になりました。</p> <p>建物内に入れず、窓から少し室内が見えた際の印象では、現在は椅子と机の生活が普通なので、和室にこだわらなくてもよいのでは、と思います。</p>

<p>長久保地区集会所</p>	<p>集会所からの風景は、素敵でした。ただ中を拝見出来なかったので良くわかりませんが、どのような活用があるか、難しいと感じました。</p> <p>メインの道路に遠く、隔離されている感じがしました。</p>
<p>田舎暮らし体験住宅</p>	<p>建物自体は改装され過ぎていて、昔ながらの古民家暮らしは体験出来ないなあと感じましたが、農林業の体験拠点や川遊びは体験できると思いました。</p> <p>キッチンや風呂、トイレ、什器の家電製品は新しく良いのですが、古びた洗濯機が置いてあったので、これは片づけた方が良いと思います。また、冷暖房が充実しているかどうか気になりました。自炊をしつつ短期滞在するのであれば、食材等の購入可能な場所の案内も必要と思います。外食するのであれば、町内の食堂やコンビニの案内も必要と思います。</p> <p>田舎暮らし体験が全国で広まっていますが、やはり自然環境のなかで取り組んでいるところが多いと感じています。</p> <p>この住宅は、出来るだけ昔のままの状態を活用するのが良いように感じ、和をテーマにした内容で、企画すると面白いと感じました。和菓子、茶道、書道、生け花、着物など、テーマごとのお部屋を作ってみてはどうでしょうか。</p> <p>住宅として使うには、もったいないと感じました。</p> <p>元医者個人の個人宅であるそうで、立派な作りだと思います。</p> <p>バス停が近いのはいいので、活用もしやすそうです。</p> <p>建物が、田舎っぽくないのと、年期の入った建築でもないのが、田舎くらしの体験とは程遠いと思います。</p> <p>家は綺麗です。</p> <p>家の周りで田舎暮らしを体験するものを増やす必要があると思います。蕎麦うち、大豆の収穫や身近はあるが、東京では体験しないものを外でやるのはどうでしょうか。</p>

<p>旧和田中学校</p>	<p>最低限のリノベーションでの活用がいいのではないかと思います。</p> <p>閉校したばかりで、まだ片付いてない感じでした。</p> <p>もし保存し、今後何らかの形で建物を再使用するのであれば、古さを損なう事が無いように配慮しつつ、ひび割れて古びたペンキ塗りの箇所の修繕や、一見したところ漏電の危険がありそうな電線の配線の見直し等が必要だと思います。また保存するトイレとは別に、使用するトイレの近代化等は必須だと思います。</p> <p>撮影場所として使うのであれば、古さを損なわないようにしなければならぬ、とも思います。</p> <p>東京からビジネス会社を誘致できると町も活性化すると思います。それぞれの教室をオフィスとして活用できればと思います。</p> <p>今では、地方で仕事をしてネット環境を利用して仕事をしている方々が増えています。</p> <p>但し、電源、ネットワーク環境などを整える必要があります。</p> <p>オフィスとして活用できれば、人口が増え、家庭を持った人も増えますし、町も生きてくると思います。</p> <p>そのためには、子育てが出来る環境、交通環境、住宅環境など、まだまだ環境整備が必要だと感じました。</p> <p>大きさは十分なので、最近流行りの道の駅に宿泊所を併設した施設にするとか、見た目の季節感のもの（桜・けやき）を増やせば、訪れる人があると思います。大きな間線道路から近ければいいのですが。</p> <p>大きな分改修は予算が必要そうですね。</p> <p>子供の集う場所には、親和性がある町の図書館と役場の一部機能があってもよいと思います。</p> <p>音楽の吹奏楽のチームが複数校練習できるように音の鳴り方を工夫してもよいと思います。</p> <p>黒板アートのような大きな絵（落書きでも可）をかかせて、記録してアーカイブ化するのはどうでしょうか。家族で描く大きな絵のアーカイブ化など出来れば面白いかもしれません。</p>
---------------	--

<p>和田庁舎</p>	<p>建築家のこだわりを感じる名建築物ですね。外観と躯体、通路などの意匠は生かして活用してほしいと感じました。</p> <p>建物はしっかりしているので、別用途で再使用する場合は什器備品をキチンと見直して有効に使用できるようにする必要があると思います。</p> <p>建物自体は、素敵などとも興味のある建物です。 一つ一つのお部屋が狭いので、活用となると難しいと感じました。</p> <p>すでに病院の工事が始まっていたので、全体をいろんな科目の医者を誘致する方がいいのではないのでしょうか。</p> <p>議会がそのまま在るので、中高生に模擬議会の体験ができるワークショップは如何でしょうか。</p>
<p>和田宿の町並み</p>	<p>賑やかな季節に見てみたいです。</p> <p>長和町に旧中山道の宿場跡があるとは知りませんでした。 昔の中山道の雰囲気が残る本陣等が印象深いので、観光客が立ち寄りやすいように駐車場や土産物売店や食堂等の整備をした上で、もっと積極的な広報が必要と思います。</p> <p>町並みはとても素敵です。 でも改善の余地は沢山あるように感じました。</p> <p>中途半端感が否めません。もっと宿場感がほしいです。 本陣の周りの商店も作りを揃えて、駐車場も整備が必要だと思います。</p> <p>京都や金沢とまでとは言わないが、良い町並みの形成はされていると思うので、もう少し整備することは必要不可欠であると感じる。 また、町並みを巡ると何らかしらの「思い出+α」的要素もマスト事項ではないか。 通った後に“寂しさ”が残ってしまったのが気になる。</p>

<p>黒曜石体験ミュージアム</p>	<p>すばらしい施設ですね。言うことありません！</p> <p>こういった施設が長和町にある事は知りませんでした。</p> <p>施設自体は大変充実した内容の展示や解説、体験ミュージアム等があるので、観光客や地質学ファンが立ち寄りやすいよう、もっと広報して集客する事が重要と思います。</p> <p>子供達を楽しめる企画がもっと必要だと感じました。</p> <p>町ぐるみで企画チームを作っていければいいのではないかと感じました。</p> <p>素晴らしいのに、隔絶していると思いました。</p> <p>メインの観光資源になりそうなのに、ほかの場所との連携がされていません。町役場の飾った黒曜石もミュージアムへの連動があればいいと思います。</p> <p>黒曜石の博物館を体験して、日本人としてどうも古事記の時代ぐらいから日本の歴史を考えがちだが、それををはるかに上回る3万年前から、日本に日本人が生活し現代と変わらない高度な生活をしていたことが分かり面白かった。</p> <p>このことをもっとしっかりPRすることが大事だと思います。黒曜石で一番気になるのはナイフとしての使い方、何とか食と結び付けて、例えば黒曜石で切り出す肉料理を（マグロの解体のように、黒曜石ナイフで肉を解体するショーなど）有名料理家に地元食材とマッチしたメニューの開発など、黒曜石で実際に肉を切る体験なども入れて、黒曜石（石器）を中心に何か考えられれば、今年か来年にさらにすごい博物館に進化する予定があるので、チャンスではないでしょうか。</p> <p>現在でも黒曜石の魅力を体験できるワークショップがたくさんありますが、食とうまくマッチできればなおよいと思います。</p> <p>町からミュージアムに行くまでの導線を整備する必要がある。</p> <p>町からミュージアムへ行くまで生まれる期待感を演出する。</p> <p>一度でなく、再び行きたくなる仕掛けが必要。</p>
--------------------	--

とびっ蔵	<p>品揃えが少々さびしい。ステーションと住み分けは出来ているのでしょうか？</p> <p>やや手狭な印象がありました。店内で名物やお菓子等をイートインできるスペースがあれば、と思いました。</p> <p>陳列棚の配置、試食部分も含めて“取り敢えず”感を感じました。</p> <p>ドライブインなのにお店らしくなく、外から見て、物販が気づきません。いやいや入って見て、中身が良かったという感じです。手作り感はあるのに、おしゃれじゃないです。パッケージから開発するべきです。</p> <p>ワインやウィスキー（祭り）や果実を用いた果実酒、健康にいい果実酒などお土産のアイテムを増やした方がいいです。同じ原料で違うものになれるのがよいと思います。</p> <p>地元の農産物（野菜や果物）が少ないように思われます。すでに売り切れだったのかもしれませんが。</p>
------	---

4. サテライトスタジオを設置するとして、何が必要でしょうか。

アーティスト等の交通・住居・作業場所・通信設備・飲食・娯楽など。

町役場の方たちは普段どのように通勤・食事・飲み会などされているのでしょうか？

もし私がサテライトスタジオを作るとしたら、町役場の隣か、和田庁舎でしょうか、サテライトスタジオの役割を明確にして、企画会議・実制作がスムーズに繋がる動線が大切だと感じました。

現有の建物をサテライトスタジオとして使用するのであれば、映像制作分野のどの分野で使用可能なかビジョンを明確にした上で（例えば、アニメの制作で動画や仕上げ、コンポジットとするのか、実写であれば撮影に使用するのか編集に使用するのか、等）、容量が十分にある電源、光ファイバー等の高速な専用通信回線が必須です。

以下のものがが必要です。

- ・スタッフが長期滞在するための宿泊可能な施設、あるいは居住するための普通の住居が必要です。

- ・コンビニやスーパー、食堂等もサテライトスタジオから徒歩可能な近隣に欲しいですね。
- ・訪問した際の印象として、町がかなり広く、拠点同士、集落同士間の移動が結構かかる印象がありました。車であれば問題ないのだろうと思いますが、この移動の問題を考えると、サテライトスタジオや上記の周辺施設は一カ所のエリアにまとめないと大変だと思いますし、サテライトスタジオ設置そのものが困難だと思います。

サテライトスタジオは、とても良いアイデアだと思います。

そのためには、皆さんが集まりやすい場所に設置するのが良いと思います。

駅周辺の環境整備でしょうか。駅周辺でショッピングしながら、いろんな催しものの企画に参加出来ると思います。

スタジオで働くスタッフはスタジオ近隣での居住が必須となります。

- ・その際の住居の確保が可能か。
- ・家賃補助等は可能か。
- ・データの送受信をおこなうネット環境等のインフラ設備はどうか？
- ・スタジオは深夜の稼働が多くなるのでコンビニ等へのアクセスの良さも必須かと。

収入が多くない若手のアニメーターにとって一人一台車が必須の環境では車を持つ事が難しいので、車の貸与や公営のカーシェアリングといった対策が必要かと。

そのスタジオは何のためのスタジオかを考えます。

- ・最終納品物のスタジオなのか、中間素材を製造するスタジオなのか。
- それによってインフラの整備具合が変わると思います。

スタジオと名のつくものは、何にしても電力が膨大に必要です。照明や冷暖房。電力の確保はどうするのでしょうか。

松本のような民芸工芸作家を誘致するのか、織物関係（絹、綿）産業をアレンジするか、紙漉きも見学できなかったのですが、山奥感が少ないです

どこにサテライトスタジオを設置するにせよ、そこまでの導線をどうするかが重要になり、長和町での移動手段が車移動マストという現状を考えると、交通手段を明確にすることが先決になるような気がする。

同時にクリアター達が住む場所をどうするのか、等の問題点もあると思われる。

そしてサテライトスタジオを設置した際の効果や宣伝能力等、現時点で具体案（アイデアレベルでも）を関係者から聞いていないので、まだまだ欠けているところだらけではなかろうか。

5. 長和町にあればよいものはなんですか。

冬以外の観光で、話題提供や飛躍の火種になるようなものがほしいと感じました。

オートキャンプ場/ブームのグランピング/フィッシングエリア/サイクリングや自転車ロードレース/街道や畑を馬車で観光などです。

小海町などはクラシックカーレースなどやっているの、クラシックバイクレースなどいかがでしょうか。

冬でも先のオリンピックで活躍したクロスカントリースキーを平野部でやったら面白いと思うのです。

スタンプラリー・食めぐり・バードウォッチング・雪中キャンプ

春のスキー場ではパラグライダー・ハングライダー等ができるでしょうか。

縄文生活体験

黒耀石がすでに良い施設ですし更に奥行きを深めて「火おこし・狩猟採集・釣・山菜・食育」

6. 今後、このプロジェクトにかかわる可能はいかがでしょうか。

私に出来ることなら協力させていただきます。

私の会社は私のマネジメントのための法人なので、私の会社がサテライトスタジオを設置するという事はありませんが、スケジュールが許せば、今回の訪問のように候補場所を視察する等、意見を申し上げる事は十分可能です。

なかなか忙しくてご迷惑をかけてしまうと思いますので、難しいと思います。

今回、参加させて頂き、長和町の魅力をいくらでも伸ばせるのでは、伸びしろを感じました。東京にこんなに近いので、町全体のアクセスや住環境が整えば、いくらでも発達していくのではないかと感じました。

私に出来る事でしたらご協力させていただきます。

もちろん興味は多分にあり、是非関わりたいという意向は持っているが、長和町自体が考えているゴール、そして中間地点がわからない現状なので、その部分は知りたいところである。

7. 本プロジェクトは今後複数年実施されます。来年度にむけてご意見、ご要望がありましたら、ぜひご記入ください。

今回、観光資源・拠点候補など、何箇所か見学させて頂きましたが、役場の方たちからじかに話を聞かせていただきたいなと思いました。

先年、女子美術大学の内山先生がワークショップを開かれたとの事でした。非常に良い取り組みだと思いますが、ワークショップや田舎暮らし体験等ばかりではプロジェクトはなかなか進まないと思いますので、信州上田フィルムコミッションと手を結ぶなり、或いは長和町でフィルムコミッションを作るなりして、まずは映像業界関係者に、映像制作の実際の作業を行うために長和町に来てもらい、町の風物や施設を使ってもらい、という本格的な取り組みと、それに必要な施設や設備の整備という部分から始めてはいかがでしょうか。

今回車での移動でしたので、町全体の配置や、住んでいらっしゃる方々の様子がわかりませんでした。一番大事なのは、住んでいる方々が住みやすく楽しいと感じて頂ける環境だと思います。町づくりを行う上で、共に考えてくださる方々を募って共に意見交換をしていくことが必要だと思いました。外からだ、解らないことが沢山あると思いますので。

今回の視察は、サテライトスタジオ誘致とコンテンツ開発が混在していました。

またスタジオ誘致もあくまでも町側の「こういった建物が活用できますよ」といった紹介でしかなく、そこへスタジオを設置した場合の会社のメリット、スタッフ的メリットが全く見えてこなかったと思います。今後はそこを具体的にしていくのがよいのではないのでしょうか？

またサテライトスタジオ誘致とコンテンツ開発は別枠で動かしていった方がよいのかと思います。

予算をかけても、あまり大きなことになると、廃墟になるだけなので、若い人だけを考えない方が懸命だと思います。若い人はお金がありません。

プロジェクト自体の進むスピードを速めた方がベターに思える。

この類のプロジェクトは、本来は慎重に遂行するものかもしれないが、ある程度の勢いも必要だと私自身は考える。(というのも他自治体が、アニメや映像、コンテンツを絡めた町興し事業に着手するスピードがここ数年早まっている風潮があるので、遅れを取ると新鮮味とPR効果が薄れてしまう)

私が旗振りの役割であれば、今後2年でプロジェクト形成できないことが見えているのであれば、2年で形成できるプロジェクト主旨に変更する方が、長和町の将来として良い方向を示せると感じる。

(4) 課題等の分析

企業訪問を通して感じた、本事業における課題については以下のとおり。

町の動線：

町内の動線、JRと町の動線については、ほぼ全員が課題としている。

町へ移住者、サテライトスタジオの設置、町への観光誘致への共通の課題である。

JRの駅とのアクセスの悪さについてはイベントに応じてバスを出すなどの工夫も検討すべきであろう。

また町中の動線については電動自転車の提供、小型バスの充実など検討すべき内容は多い。これらは当初は季節ごとの対応でも可能であろう。

町としての印象：

町として発信している情報量が圧倒的に少ない。発信する内容も現状では薄く今後作り上げていく必要があると考えられる。町の印象がはっきりしないということと考えられる。

今あるコンテンツの充実：

町の印象がぼやけていることと関連するが、今あるコンテンツを育てていく必要がある。例えば和田宿というコンテンツにおいて、和田宿をどう説明して発信していくのか、飲食、物販の環境づくりと和田宿というコンテンツを作り上げていく必要がある。

どのコンテンツにも良いところはあるそうだが、訴求ポイントがわからない、場所として魅力が見えないということである。魅力は掘り起こすことも必要であるが、創り上げていくことも必要である。

コンテンツとコンテンツのつながり：

町中の動線と関係するが、町のコンテンツとコンテンツを結ぶ交通手段がない。

今回一番評価されていたのは黒耀石体験ミュージアムであるが、場所が町の中心地から離れている。この場所が魅力的であっても、町の観光とどれだけ結びついているか不明である。

動線だけでなく、コンテンツとコンテンツのつながり、コラボレーションも必要である。例えば黒耀石と紙布織の組み合わせによる新しい商品づくり、ワークショップの提案などが検討される。

サテライトスタジオの設置：

スタジオの環境づくりも重要であるが、それよりも働く人間の環境としての魅力づくりが重要である。遊ぶ場所の有無ではなく、職住接近、その環境の良さが特に若手にクリエイターに必要であろう。それには宿泊施設の充実が必要である。

またスタジオがあることで、人材交流ができることが重要である。それには女子美術大学という人材の拠点があることは魅力の一つとなるだろう。

4. 「アートをテーマとした構想事業」専用のホームページ制作

専用ホームページを設置し、「アートをテーマとした構想事業」の概要を広く発信する。

そのためのドメインとレンタルサーバを用意した。

<http://www.art-nagawa.jp>

ホームページコンテンツは以下の通り構成する。

第一階層		
トップページ	メインメニュー	
		第2階層
	アートをテーマとした構想事業について	構想概要
	活動報告	平成28年度「作品集」
		平成28年度「活動報告書」
		平成29年度
	問い合わせ	

※「活動報告」の「平成29年度」は来年度（平成30年度）に「活動報告書」を追加する。

「平成28年度活動報告」内の「女子美術大学のワークショップ作品集」に掲載した作品について、多くの成果物がデジタルデータでの提出がされていないため出力原本をスキャニングし、デジタル化した。その結果、品質にどうしても問題がある。今後、女子美術大学の協力と著作者の協力・同意を得てデジタルデータがあるものについては差し替えなどのメンテナンスを行っていく。

「既存の長和町公式Facebookページへのコンテンツ供給」については視察事業の実施時期が期末に迫っており、活動内容に関するコンテンツの準備が整わなかった。また、公式Facebookページへのコンテンツ供給ルートの構築ができなかった。今年度のコンテンツについては来年度供給していく。

「活動の進捗に合わせ、月次でホームページの更新を行う」についてはやはり視察実施時期が期末に集中したため、進捗にしたがって行うはずの更新ができなかった。これについても来年度（平成30年度）に本年度活動内容をホームページに記載し、更新する。

5. 来年度（平成30年度）の事業

今年度の事業成果を踏まえ、次の方向性で事業を展開する予定である。

- ・長和町からの提案と女子美術大学の提案を踏まえ、関係者間の十分な協議を行った上で具体的な活動内容を決定する。あわせて、長和町の魅力を情報発信できるような取組を検討していく。

- ・サテライトオフィスの誘致に関しては、企業訪問の結果を検討・分析し、企業の誘致可能性について更に検討を深める。

- ・今年度立ち上げたホームページについて内容の充実を図る。